

情報連絡員だより

－平成 29 年 10 月分の報告より－

台風の影響大、収益面は依然として苦戦

業 種 / 景 況 天 気 図		概 況	
全 体		相次いで襲来した台風が、客足減少や工事の遅延、宿泊のキャンセル等、各業種に悪影響を及ぼしている。また、一部においては売上や生産活動に回復の兆しが見られているものの、原材料価格の上昇や、人件費をはじめとする経費負担の増加等で、収益面については依然として苦戦を強いられている。	
製 造 業	食 料 品		パンは台風などの天候の影響で客足が鈍化し、売上・収益ともに悪化傾向にある。製麺は生麺類において、大手企業が好調となるも、中小・零細事業者は取引先の減少等で苦戦している。食肉は高値相場により売上はほぼ横ばいを維持するも、人件費等の経費負担の増加で、収益状況が厳しさを増している。
	織 維 ・ 同 製 品		桐生織物は婦人服地で梅春物の生産が例年並みとなる一方、和装織物は販売会や展示会を開催するも、効果は薄く低調となる。伊勢崎織物は伊勢崎銘仙の引き合いがあるも、技術者の高齢化や後継者不足で取引に至らない場面が散見される。繊維製品は売上・収益ともに厳しく、先行きが見通しにくい状況が続いている。
	窯 業 ・ 土 石 製 品		生コンは東毛地域を除き、民需の低迷で出荷量が落ち込んでいる。コンクリートブロックは相次ぐ台風の上陸や接近で工事の遅延が発生し、出荷量が減少傾向にある。コンクリート製品は売上が回復傾向にある一方、販売価格や取引条件における企業間競争により、利益確保に苦慮している。
	機 械 ・ 金 属		S U B A R U 関連は無資格検査問題がもたらす今後の影響を不安視。食品関係や機械関係が好調となる反面、電機関係は需要が伸び悩み、生産活動が低下傾向にある。鍍金は精密機械関係等で回復傾向が見られる一方、自動車関連においては引き合いがあるも、一部企業が低単価を理由に受注を断る場面も見受けられる。
	そ の 他 の 製 造 業		木材は荷動きが横ばい状態の中、原料不足による仕入価格上昇や人手不足などの懸念事項が見られる。印刷は一部企業で回復の兆しが見られるものの、原材料価格は高止まり傾向にある。紙加工品は需要期に差し掛かる中、今後の原材料の価格改定を不安視している。
非 製 造 業	卸 売 業		高崎卸は「団地完成 5 0 周年記念上州どっと楽市」を開催し、台風が接近する中約 2 6 , 0 0 0 人の来場者数を記録。太田卸は組合員企業において、新卒・中途を問わず若年層の人材確保に苦慮している。農産物卸は安値相場で推移していたものの、台風の直撃による品薄の影響で、中旬以降は価格が上昇傾向となる。
	小 売 業		燃料小売は悪天候続きで販売量が減少するも、原油価格の値上がりで末端価格が上昇したことにより、売上は増加している。生花小売は台風の影響による客足の減少や販売価格の低迷に苦慮している。商店街はイベントによる賑わいが見られるも、週末における台風の影響で客足が減少している。
	サ ー ビ ス 業		温泉旅館は台風の影響で宿泊のキャンセルが発生するも、イベント等の影響で売上はほぼ横ばいを維持している。不動産取引は安中市域において、賃貸物件は「借り手市場」の影響で賃料が下落傾向にあり、今後の収益悪化が懸念される。建築設計は地域との親和性を考慮した県産材の利用促進が今後の課題となっている。
	建 設 業		解体工事は自治体における空家対策助成制度の充実で、工事件数が増加している。電気工事は継続的な小・中規模の受注獲得で売上・収益ともに好転するも、若手技術者の都心への流出で人手不足となり、繁忙感が高まっている。塗装工事は売上が増加する一方で、経費負担の増加で収益性が低下傾向にある。
	運 輸 業		台風や降雨の影響で、行楽地への飲料水や農作物の輸送量が減少するなど、月末を除いて荷動きは低調に推移。また、O P E C 主導の協調減産合意の延長見込みから原油価格が上昇し、燃料価格は高値で推移している。小型運送は季節商品を中心とした食料品や医薬品の輸送量が好調に推移し、売上・件数ともに増加。